

## 第2部 文理融合セミナー「放射線の発見と応用の歴史」

12/20 (火) 13:00-18:30 大阪大学会館 2階 講堂

放射線は、原発事故や軍事利用など、怖いイメージがあるかもしれませんが、最先端の科学研究や医療でも活躍しています。今回は、放射線の基礎知識を共有し、発展応用の歴史的・政治的背景から人体・社会に与える影響まで、理系と文系の両面から読み解き、さらなる発展に向け議論します。

対象：教職員・学生、企業関係者、一般の方

オーガナイザー：理学研究科・篠原 厚、豊田 岐聡 法学研究科・田中 仁、北村 亘

- 13:00-13:10 挨拶・X線天文学の話題提供 常深 博 (阪大・理学研究科長)
- 13:10-13:40 (1) 「放射線の発見とその後の展開」 高杉 英一 (大阪大学名誉教授)
- 13:40-14:10 (2) 「原爆開発をめぐる国際関係」  
山田 康博 (阪大・国際公共政策研究科教授)
- 14:10-14:40 (3) 「放射線は生命にとってなぜ有害か」  
升方 久夫 (阪大・理学研究科教授)
- 14:40-15:00 休憩 (20分)
- 15:00-15:30 (4) 「被爆・被ばくの社会的・心理的被害」  
川野 徳幸 (広島大学平和科学研究センター教授)
- 15:30-16:00 (5) 「福島原発事故で放出された放射能について」  
篠原 厚 (阪大・理学研究科教授)
- 16:00-16:30 (6) 「原子力政策の停滞：なぜ脱原発も原発再稼働も進まないのか」  
上川 龍之進 (阪大・法学研究科准教授)
- 16:30-17:00 (7) 「科学技術政策の「司令塔機能強化」の行政学的意義」  
村上 裕一 (北海道大学公共政策大学院・法学部 准教授)
- 17:00-17:10 休憩 (10分)
- 17:10-17:40 (8) 「放射線と医療：ベネフィットとリスクのはざままで」  
畑澤 順 (阪大・医学系研究科教授)
- 17:40-18:10 (9) 「社会保障政策における財源と給付：最先端科学における  
保健・医療・介護のあり方」  
足立 泰美 (甲南大学経済学部准教授)
- 18:10-18:25 総括
- 18:25-18:30 閉会挨拶 林 智良 (阪大・法学研究科長)